株主のみなさまへ

FUJIFILM NEWS

December 2008 vol.75

株主の皆さまへ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第2四半期における世界経済は、米国に端を発した金融不安が世界規模で広がり、雇用や消費など実体経済への影響は米国に留まらず、比較的堅調であった欧州、景気拡大の続いたアジアへも波及しています。国内経済においても、原材料価格の高止まりや為替の円高進行による企業業績への影響に加え、個人消費の低迷など景気減速が明らかとなり、当社グループも予想を上回る市場環境悪化の影響を受けました。

平成20年度第2四半期累計期間の業績の振り返り

当社の平成20年度第2四半期累計期間（平成20年4月1日〜9月30日）の連結売上高は、1兆3,384億円（4.9%減）となりました。減収（696億円）の大きな要因は、イメージング・インフォメーション・ドキュメントのすべての部門において急激な円高（影響額502億円）などの市場環境激変の影響を受けたことです。また、イメージング部門ではカラーフィルムの需要の減少や、カラーペーパー、デジタルカメラの価格競争が激化するなど、市況の厳しい影響を受けました。

営業利益についても、世界的な景気減速や為替レートの円高に加え、アルミや銀などの主要原材料価格が高水準で推移したほか、昨年度第2四半期より減価償却方法を見直したことに伴う減価償却費の増加などマイナス影響を受け、812億円（25.2%減）と減益になりました。税金等調整前四半期純利益についても817億円（28.8%減）、四半期純利益は453億円（29.8%減）となりました。

※ 増減率は、いずれも前年同期比

通期の見通しについて

通期の業績予想では、引き続き為替の円高進行と世界的な景気の減速が、収益圧迫の要因となることが見込まれます。一方、銀やアルミなど主要原材料価格の動向は予断を許さないものの、価格は下落傾向にあり、円高影響の一部を相殺できると見ています。平成20年度の業績見通しは本年8月に業績修正を発表した通り、売上高2兆8,500億円、営業利益1,600億円、当期純利益800億円を予定しています。

インフォメーション ソリューション部門の成長事業の一つであるメディカルシステム・ライフサイエンス分野においては、本年10月、これまでフジノンが行ってきた内視鏡事業の抜本的体制の強化を目指し、富士フイルムのメディカルシステム事業部に統合しました。また、11月には医療分野における予防・診断・治療の全領域での事業展開をさらに加速すべく、「ヘルスケア事業統括本部」を設立しました。富士フイルムのメディカルシステム事業部、ライフサイエンス事業部ならびに富山化学、富士フイルムRIファーマなど、富士フイルムグループが持つ医療分野のすべての力を結集し、高い技術と競争力のある総合ヘルスケア事業を大きく展開していきます。

イメージング ソリューション部門においては、来年2月に、イメージング部門の国内販社である富士フイルムイメージングを富士フイルムに統合し、激しく変化していく市場の動向を迅速に開発・生産に反映させる効率的な体制を再構築していきます。また、ドキュメント ソリューション部門においても、すべての業務を抜本的に見直し、生産性を高めるとともに、サービス事業の強化、顧客の多様なニーズに応える最適な商品ラインアップの強化を進めていきます。

第3四半期以降も、先行き不安からの消費低迷、価格競争の激化など、厳しい外的影響が当社の全事業に幅広く及ぶと予想しています。しかしながら、このような経営環境の悪化という逆風を、企業体質強化のチャンスととらえ、すべての事業において諸活動の徹底的な見直しを行います。

① 競争力ある製品の投入・拡販
② 販売費・一般管理費の削減など「スリム&ストロング活動」による徹底的なコストダウン
③ 設備投資、研究開発投資など、次なる飛躍の原動力となる成長戦略をさらに強力に推進

これら施策に全社一丸となって取り組んでいきます。

株主還元について

最後となりましたが、中間期の配当金は17円50銭、年間配当では35円を予定しております。また、取得金額350億円あるいは取得株数1,750万株を上限に、11月5日から来年1月16日にかけて自己株式の取得を行います。自己株式取得により本年度の株主還元性向（当期純利益に対する配当と自社株買いを合わせた総額の割合）は約65%程度と、目標の25%ならびに昨年実績の50%を大きく上回る見込みです。

株主の皆さまには、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成20年12月

代表取締役社長・CEO 古森重隆

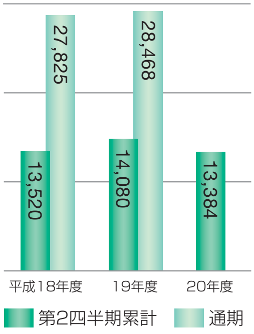
業績サマリー　平成20年度 第2四半期累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）

財務ハイライト

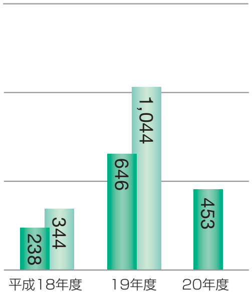
単位:百万円（1株当たり四半期純利益、中間配当金を除く）

	平成20年度第2四半期累計	平成19年度第2四半期累計
売上高	1,338,486	1,408,074
営業利益	81,273	108,662
税金等調整前四半期純利益	81,737	114,767
四半期純利益	45,382	64,647
1株当たり四半期純利益（円）	89.97	126.48
1株当たり中間配当金（円）	17.50	17.50
研究開発費	95,707	90,773
設備投資額	56,705	76,574
減価償却費	105,565	109,005
資産合計（期末）	3,178,397	3,346,960
資本合計（期末）	1,950,523	2,024,090

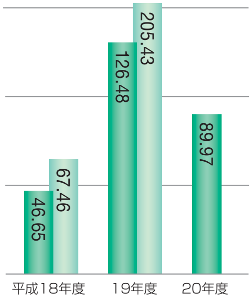
売上高（億円）



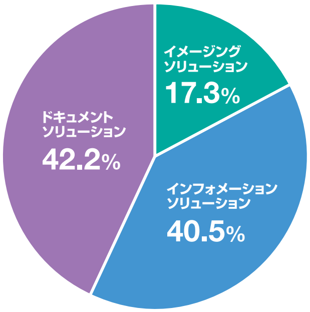
当期純利益（億円）



1株当たり当期純利益（円）



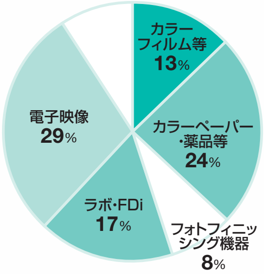
売上構成比（平成20年度第2四半期累計）



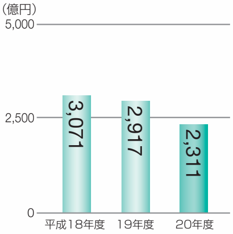
イメージング ソリューション

イメージング ソリューション部門は、カラーフィルム、デジタルカメラ、フォトフィニッシング機器、写真プリント用のカラーペーパー・薬品・サービス等から構成されています。

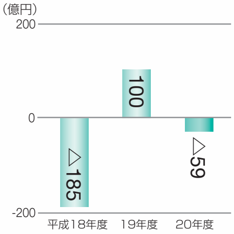
**第2四半期累計
事業別売上構成比**



**第2四半期累計
連結売上高**



**第2四半期累計
営業損益**



イメージング ソリューションは、市場の縮小や、デジタルカメラの競争激化、為替円高影響などにより、売上高は2,311億円(対前年同期比20.8%減)となりました。また、厳しい事業環境や円高影響、および銀など主要原材料価格の高騰の影響も受け、営業損失は59億円となりました。

カラーペーパーは、主要国での拡販を進めたものの、価格競争の激化や円高影響などにより、売上高は減少しましたが、「フォトブック」をはじめとした付加価値プリントの販売促進を強化していきます。また、カラーフィルムの市場縮小、フォトフィニッシング機器の販売減も続いております。今後は、ドライミニラボのラインアップ充実による拡販などを進めていきます。

電子映像事業分野は、在庫圧縮の一方、高性能の「顔キレイナビ」や新開発の「シーンぴったりナビ」を搭載した「FinePix F60fd」などの新製品を投入しましたが、世界的な景気減速や競争激化による価格下落の影響を受けました。

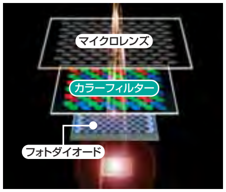
当部門については、早期黒字化に向けて、構造改革の実施、サプライチェーンマネジメントの改善、当社独自の新技術を搭載した差別化製品の市場投入など、事業基盤の強化を一層図っていきます。

“人の眼”のメカニズムに着目した
デジタルカメラの新技術開発

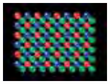
富士フイルムは、写真メーカーとして長年培ってきた画像に関する高度な技術とノウハウを生かし、“目で見たままに、大切な瞬間・シーンを撮影する”との技術コンセプトのもと、新しいデジタルカメラの技術を開発しました。

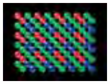
1つのセンサーで「高感度」「ワイドダイナミックレンジ」「高解像度」を高いレベルで実現する画期的なCCD
「スーパーCCDハニカム EXR」

人間の眼が無意識に行っている「明るいところでは解像度を高く」「暗いところでは明るく」「明暗差の大きいシーンでは光量差を調節する」というメカニズムをCCDで実現。「ノイズの少ない高感度画像」「細かなディテールまでクリアな再現」「豊かな階調表現」など、あらゆるシーンでバランスのとれた高画質な写真が撮影できます。



▲「スーパーCCDハニカム EXR」の構造図


▲従来のカラーフィルター配列


▲「スーパーCCDハニカム EXR」のカラーフィルター配列

世界初! 裸眼で臨場感あふれる立体映像が楽しめる
3Dデジタル映像システム「FUJIFILM FinePix Real 3D System」

高画質な3D映像を静止画でも動画でも撮影できる「3Dデジタルカメラ」をはじめ、裸眼でも自然な3D映像が見られる「3D液晶モニターシステム」、さらには「3Dプリントサービス」など、トータルでの3D映像システムを開発。このソリューションをデジタル映像の新しい柱として、豊かな映像ライフを提供していきます。

▲3Dデジタルカメラ

▲3Dデジタルフォトフレーム

▲3Dプリント

Close up ▼

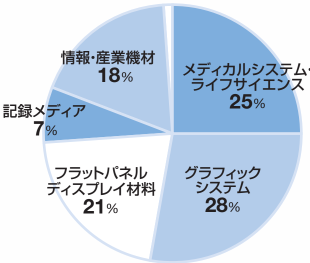
2年に一度、ドイツで開催される世界最大の写真展示会「Photokina 2008」に出展

平成20年9月23〜28日に開催された「Photokina 2008」において、富士フイルムは「Fujifilm. Expand the World of Imaging」をスローガンに掲げ、デジタルカメラの最新技術や製品、「お店プリント」を中心とする多彩なプリントサービスなどを大々的に発表しました。プリントソリューションでは、「フォトブック」などの付加価値プリントサービスを拡充し、多様化するお客様のニーズに応えていくとともに、写真の楽しみ方、市場を広げていくのは富士フイルムだというリーディングメーカーとしての姿勢も強くアピールしました。

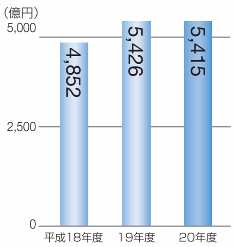
インフォメーション ソリューション

インフォメーション ソリューション部門は、メディカルシステム・ライフサイエンス機材、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、光学デバイス、電子材料、インクジェット用材料等から構成されています。

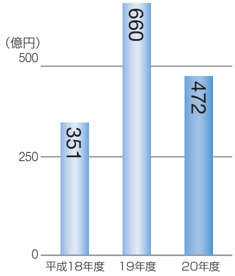
第2四半期累計
事業別売上構成比



第2四半期累計
連結売上高



第2四半期累計
営業利益



インフォメーション ソリューションは、全事業において世界的な景気減速の影響を受けましたが、フラットパネルディスプレイ（FPD）材料や、カメラ付き携帯電話用レンズユニットの販売が好調な光学デバイス事業の売上が順調に拡大し、売上高は5,415億円（対前年同期比0.2%減）となりました。営業利益は、為替円高影響、アルミや銀など主要原材料の価格高騰の影響などを受け、472億円（対前年同期比28.5%減）でした。

メディカルシステム・ライフサイエンス事業は、国内の診療報酬改定の影響によりフィルム需要が減少しましたが、開業医向け小型「FCR」の販売が堅調に推移し、また、「SYNAPSE」など医用画像情報ネットワークシステム関連の売上高が大幅に増加しました。内視鏡製品は、欧米で発売したハイビジョン内視鏡システムなどの販売が堅調に推移しています。

グラフィックシステム事業は、為替円高、欧米の景気減速などの影響を受けましたが、ワイドフォーマットインクジェットシステム、CTPプレートの販売が伸長しました。

FPD材料事業は、8月以降、パネルメーカーの生産調整などの影響を受けたものの、主力製品である「フジタック」「WVフィルム」など高付加価値フィルムの売上が拡大しました。

情報・産業機材事業は、カメラ付き携帯電話用レンズユニットが市場で高く評価され、売上が増加しました。

ヘルスケア事業統括本部を設置

重点事業分野であるメディカルシステム・ライフサイエンス事業の体制強化のため、同事業の事業企画・法務・薬事機能を統括する「ヘルスケア事業統括本部」を設置しました。これまでのX線画像診断をはじめとする「診断」分野から、機能性化粧品・機能性食品などのヘルスケア商品をはじめとする「予防」分野、さらには本年2月に買収した富山化学を中心とする「治療」分野へと領域を拡大するとともに、これらが一体となり、トータルでカバーする「総合ヘルスケアカンパニー」へと発展していくことを目指します。

Close up ▼

フルデジタル電子内視鏡システムの最上位シリーズ **「Advancia」**（アドバンシア）

大学病院や地域中核病院などの高度な診断・治療ニーズに応えるフルデジタル電子内視鏡システムの最上位シリーズ「Advancia（アドバンシア）」の第1弾として、分光画像処理機能「FICE（Flexible spectral Imaging Color Enhancement）」※を標準搭載した高性能プロセッサー「VP-4450」、スコープ3種などを、平成20年11月1日より発売しました。

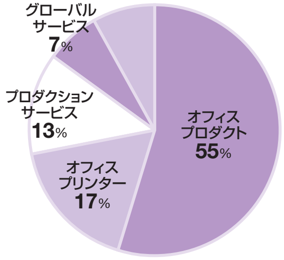
なお、内視鏡事業のさらなる競争力強化を図るため、10月1日より、内視鏡事業をフジノンから富士フイルムへ統合しました。重点事業のひとつとして、グループの技術・製品の連携により、総合的に医療の質や効率の向上に寄与する製品開発・販売を積極的に進めていきます。

※波長パターンを自由に選択して画像処理を行うことにより、通常画像から分子画像（特定波長の光で得られる画像）をリアルタイムに生成する機能

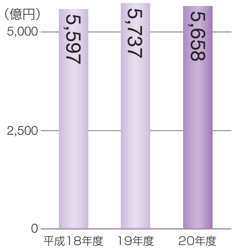
ドキュメント ソリューション

ドキュメント ソリューション部門は、オフィス用複写機・複合機、プリンター、
プロダクションサービス関連商品、用紙、消耗品、オフィスサービス等から構成されています。

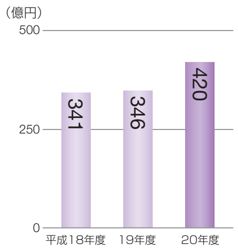
第2四半期累計
事業別売上構成比



第2四半期累計
連結売上高



第2四半期累計
営業利益



ドキュメント ソリューションは、カラー機を中心に米ゼロックス社向け輸出が増加しましたが、為替変動による影響などにより、売上高は5,658億円(対前年同期比1.4%減)となりました。営業利益は、「スリム&ストロング活動」などによる原価低減、販売費及び一般管理費の削減などが奏功し、420億円(対前年同期比21.3%増)と大幅増益となりました。

オフィスプロダクト事業は、国内においては市場全体の需要が減少する中、フルカラーデジタル複合機「ApeosPort-Ⅲ C3300/C2200」や低価格帯の「DocuCentre C2101」の販売が好調に推移し、カラー機の販売台数が増加。アジア・中国地域でも、カラー機の販売が好調に推移しました。米ゼロックス社向け輸出では、資源国及び新興国での需要増や同社の販売チャネル買収効果等により、カラー機・モノクロ機とも出荷台数が大幅に増加しました。

オフィスプリンター事業は、国内においては、需要減少により自社ブランド商品の販売、OEM向け出荷台数が減少したものの、アジア・中国地域での販売、輸出とも、カラー機の出荷台数が大幅に増加しました。

プロダクションサービス事業は、国内においては、モノクロ・オンデマンドパブリッシングシステム「4112/4127 Light Publisher」、グラフィックアーツ市場向けカラー複合機「DocuColor 1257GA」の販売が好調に推移したことに加え、8月に販売開始した「700 Digital Color Press」の好調な立ち上がりにより、販売台数が大幅に増加しました。同機種は、国内に先駆けて出荷した米ゼロックス社向けの輸出が好調に推移しています。

グローバルサービス事業は、お客様の業務プロセス改善に向けたコンサルティングやドキュメント管理業務全般の運用等を行うドキュメントアウトソーシングビジネスが、国内外ともに引き続き伸長しました。

カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム「700 Digital Color Press」

市場が拡大するプリントオンデマンド(POD)システムのエントリーモデルとして、POD市場で求められる出力品質・生産性・操作性と、優れたコストパフォーマンスを実現しました。多品種・少部数印刷に強みを持つPODの特長を生かし、カタログ・パンフレット・ダイレクトメールの印刷など、お客様のビジネス拡大を推進していきます。

Close up ▼

セキュア・ネットワーク・アウトソーシングサービス「beat」のソリューションメニュー強化

強固なセキュリティと、低コストでの導入・運用を実現する、富士ゼロックスの中堅・中小企業向けITインフラ提供サービス「beat」。不正な通信を検知・遮断する「IPS(侵入防止システム)」や、多拠点間を結ぶ大規模ネットワーク基盤を安全・安価に提供する「beat/vpnサービス」など、ソリューションの充実を図り、強力なサポート体制で運用管理の負担も低減します。

また、富士フイルムイメージテックの大容量ファイル共有送受信サービス「IMAGE WORKS」との連携により、インターネット上のサーバーで共有する大容量デジタルデータを早く安全にやりとりするASPサービスも開始しました。このサービスは、今夏開催された「G8京都外相会合」や「北海道洞爺湖サミット」でも採用され、各国メディアの報道に大きく貢献しました。

▲「beat」と「IMAGE WORKS」により配信されたサミットの公式写真

成長戦略のさらなる推進を図っていくために

市場を切り拓き、リードしていく
富士フイルムグループの重点事業

中期経営計画「VISION75」の成長戦略において重点事業に位置づけている「メディカルシステム・ライフサイエンス」「グラフィックシステム」「ドキュメント」「光学デバイス」「高機能材料」の中から、注目事業を紹介します。

新たな画像診断支援システムで診断の質の向上に貢献する

メディカルシステム事業

乳がんの特徴を示す部位を表示し、医師の読影をサポート

FCRデジタルマンモグラフィCAD「MV-SR657」

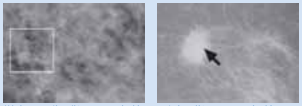
(CAD:Computer Aided Detection)

乳がんは、初期段階で発見･治療すればほぼ治るといわれていますが、日本は欧米に比べて検診率が低いのが現状です。一方、国がん検診率50%を目指しており、乳がん検診受診者の増加などによる医師の負担増加が懸念されています。

富士フイルムは、これまで乳がん検診用のデジタルX線画像診断システム「FCRマンモグラフィシステム」により、高精細な診断画像を提供してきました。今年2月には、「FCR」で読み取った画像をコンピュータで解析し、乳がんの特徴を示す部位を表示する乳がん検出支援システムを発売しました。医師の画像診断をコンピュータシステムによってサポートすることで、診断精度の向上が見込まれます。

開発にあたっては、国立がんセンターの協力を得て、日本国内の症例画像データをもとに独自の検出アルゴリズムを構築し、国内メーカーで初めて薬事承認を受けました。

「MV-SR657」による検出結果表示例



微小石灰化が疑われる部位　腫瘤が疑われる部位

「雪山で白うさぎを見つけるに等しい」と例えられる乳がん診断。乳がん検出支援システムの利用によって、読影量が増加しているドクターの読影業務を支援し、乳がんの早期発見に寄与できると見込まれます。

「ピンクリボン運動」で乳がんの早期発見・早期治療を啓発

Pink Ribbon

富士フイルムグループは、マンモグラフィ乳がん検診による早期発見･早期治療で乳がん撲滅を目指す社会運動「乳がん検診啓発活動」を応援しています。

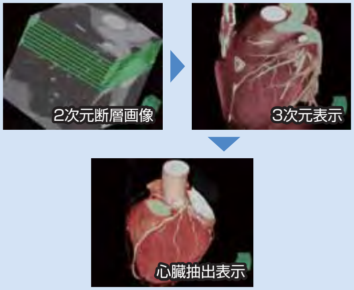
その一環として10月に行われた「ピンクリボン スマイルウオーク」の東京会場では、マンモグラフィ検診車による乳がん検診や説明パネルなどを使って、検診の重要性を訴えました。

CT、MRIなどの2次元画像から3次元画像を抽出する
画像解析システムの領域に本格参入

ボリュームアナライザー「SYNAPSE VINCENT」

昨今、CTやMRIなど画像診断装置の進歩･高度化により、短時間に大量の断層画像の撮影が可能になり、これらから3次元画像を抽出して臓器や血管などの疾患部をより正確に診断し、治療計画作成に役立てるなど、精度の高い解析機能のニーズが高まっています。

富士フイルムは、独自の画像処理技術「Image Intelligence™」を応用展開して、大量の2次元画像から精度の高い3次元画像の簡単かつ高速な自動抽出を実現した画像解析システムの開発に成功しました。診断や治療ニーズに合致した実用性の高い解析機能を搭載し、放射線技師の負担軽減や医師の読影作業の迅速化に貢献します。



CTやMRIなどで撮影された大量の2次元画像から精度の高い3次元画像を形成し、臓器や血管など診断に必要な部位を数クリックで抽出します。

拡大するデジタル印刷市場に向けて、グループの総力を挙げて挑む

グラフィックシステム事業・ドキュメント事業

富士フイルムと富士ゼロックスのシナジーにより、

次世代インクジェットデジタルプリンティング技術を開発

印刷分野は、デジタル化の進展や市場環境が変化するとともに、多品種・少部数印刷のニーズが高まっています。特にプリントオンデマンド（POD）市場に対しては、富士フイルムと富士ゼロックスが共同して製品開発・販売を進めるなど、さまざまなシナジーを発揮しています。

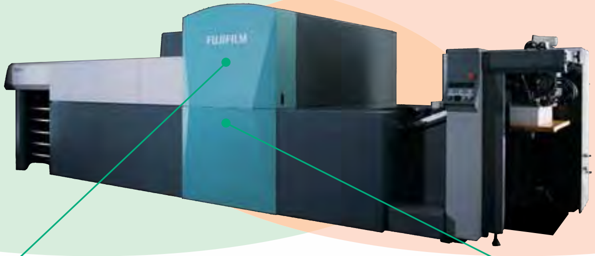
そして本年5月、富士フイルムの高機能性材料技術・プリントヘッド技術と、富士ゼロックスのシステム設計・開発技術とのコラボレーションにより、デジタル印刷では難しいとされた「高速」「オフセット印刷レベルの高画質」「大サイズ」を実現し、印刷業界にイノベーションをもたらすインクジェットデジタルプリンティングシステム「Jet Press 720（仮称）」を開発しました。

富士フイルムグループは、従来のオフセット印刷のみならず、市場が拡大するデジタル印刷においても、多様なニーズに対応し、印刷業界のリーディングカンパニーとして、今後も成長し続けていきます。

―次世代インクジェットデジタル印刷機―

Jet Press 720（仮称）

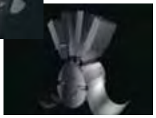
FUJIFILM
富士フイルムの卓越したケミカル技術・プリントヘッド技術



FUJI xerox
富士ゼロックスのシステム設計・開発技術

インクジェットプリントヘッド技術

産業用インクジェットプリントヘッドのリーディングメーカー、FUJIFILM Dimatix, Inc.が開発。720mmの印字幅の長尺プリントヘッドにより、シングルパス方式で高解像度な画像を高速印字します。

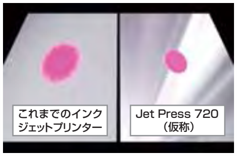


▲心臓部となる4つ並んだプリントヘッド▶

▲大サイズに対応するシンプルパス方式のプリントヘッド

水性インクジェット材料技術

富士フイルムのケミカル技術を駆使して、水性インクジェット材料技術を開発。多様な印刷用紙に、にじみのない高画質印刷できるようにしました。



▲プレコーティングと独自開発のインクにより、にじみのない画質を実現

4年に一度の世界最大の印刷機材展示会「drupa 2008」で「デジタルプリンティングとオフセット印刷の融合」をアピール

ドイツで平成20年5月29日～6月11日開催された「drupa 2008」では、「DIGITAL POWER AT YOUR CONTROL」をテーマに、オフセット印刷とデジタル印刷を組み合わせ、ユーザーのビジネス拡大を実現する製品やソリューション、新しいビジネスモデルを紹介しました。特にここで発表された「Jet Press 720（仮称）」は、“印刷の常識を変える”と、大きな注目を浴びました。

各方面からの高評価を得る高度な光学技術を武器に、市場を拡大

光学デバイス事業

カメラ付き携帯電話用レンズユニット・ハイビジョン用テレビレンズ

市場のニーズを的確にとらえ、他に先駆けた開発によりシェアを拡大

カメラ用レンズ、光ディスクのピックアップレンズなどの開発から生産までを行う富士フイルムグループの光学デバイス事業。この事業の中核となるフジノンは、高度なレンズ研磨・成形・コーティング技術を駆使した高品質な製品を安定供給することで、高い信頼性を維持し続けています。

近年、需要が急拡大しているカメラ付き携帯電話用レンズユニットにおいては、高画素化・高画質化、オートフォーカス・ズームなどの高機能化した製品を提供し、3メガピクセル以上のカメラ付き携帯電話用レンズユニットでは、世界シェアは60%を占めています。また、世界シェア50%超を誇るテレビレンズでは、テレビ放送や映画などにおけるハイビジョン化の進展に合わせ、フジノンはいち早く高性能・高倍率ハイビジョンレンズを市場導入しています。今後、グローバル展開をさらに推し進め、ゆるぎないポジションを築いていきます。

■カメラ付き携帯電話用レンズユニット

3メガピクセル用レンズユニットを中心に、2〜8メガピクセルの高付加価値製品をさまざまな携帯電話メーカーに供給

■テレビレンズ

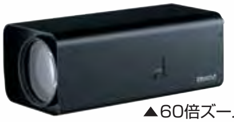
▲テレビや映画などの撮影に使用されるフジノンのテレビレンズ

世界的な需要増大が期待される

小型・高精度・高付加価値の監視カメラ用レンズ

世界的なセキュリティレベルの高度化に伴い、需要の増大が期待されるのが、監視カメラ用レンズです。フジノンでは、小型・高精度・高倍率・高性能な監視カメラ用レンズ開発に注力し、次々と市場導入しています。

世界最高の60倍ズームレンズや昼夜兼用補正機能を搭載した製品は、その性能が評価され、空港・港湾・街頭・国境警備などに利用されています。



▲60倍ズームレンズを搭載した監視カメラ用レンズ

継続的な成長を目指し、新たな市場にも確かな布石

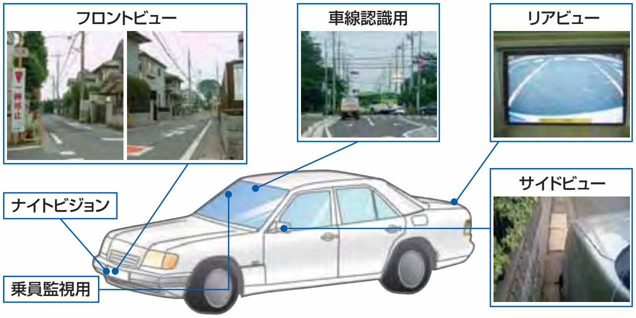
車載用カメラレンズ事業を拡大

光学デバイス事業が新たに注目するのは、車載用カメラレンズ市場です。車載用カメラは、リアモニターをはじめ、フロント・サイドなど10個程度の搭載が高級車から進むと見込まれており、今後、市場規模が大きくなることが予想されます。

フジノンでは、すでに車載用カメラレンズの開発を5年ほど前から開始しており、広角かつ高解像度で歪みが少ないという品質面での優位性に加え、コスト面でも優位なポジションにあります。

今後、自動車部品メーカーと連携して開発を進め、この市場での事業の拡大を目指します。

■富士フイルムグループの光学レンズが使われる車載用カメラレンズ



第2四半期累計連結財務諸表

■連結貸借対照表

単位:百万円

科 目	平成20年度 第2四半期累計	平成19年度 第2四半期累計
資産の部		
流動資産	1,485,447	1,623,408
投資及び長期債権	381,417	486,230
有形固定資産及び その他の資産	1,311,533	1,237,322
資産合計	**3,178,397**	**3,346,960**
負債の部		
流動負債	642,943	792,134
固定負債	453,325	414,063
少数株主持分	131,606	116,673
資本の部		
資本金	40,363	40,363
資本剰余金	69,709	68,872
利益剰余金	1,959,983	1,892,476
その他	△119,532	22,379
資本合計	**1,950,523**	**2,024,090**
負債・少数株主持分 及び資本合計	**3,178,397**	**3,346,960**

■連結損益計算書

単位:百万円

科 目	平成20年度 第2四半期累計	平成19年度 第2四半期累計
売上高	1,338,486	1,408,074
営業利益	81,273	108,662
税金等調整前四半期純利益	81,737	114,767
四半期純利益	45,382	64,647

■連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科 目	平成20年度 第2四半期累計	平成19年度 第2四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	133,131	151,034
投資活動によるキャッシュ・フロー	△86,901	△113,641
財務活動によるキャッシュ・フロー	△58,855	△27,221
為替変動による現金及び 現金同等物への影響	488	△393
現金及び現金同等物 純増加・純減少(△)	△12,137	9,779
現金及び現金同等物期首残高	330,926	384,719
現金及び現金同等物四半期末残高	**318,789**	**394,498**

携帯電話版「株主・投資家情報」サイトオープン

富士フイルムホールディングスの携帯電話版「株主・投資家情報」サイトがオープンしました。外出先からでも、決算発表や個人投資家様向け説明会イベントの告知などの情報をタイムリーに入手いただけます。ぜひ「お気に入り」に登録してアクセスしてください。

<アクセス方法>

▶ **QRコード(2次元コード)でアクセス**

バーコードリーダーで読み込んでください。

※詳しくはご利用中の携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

▶ **携帯電話で直接URLを入力**

URL **http://m.fujifilm.jp/fujifilmholdings/investors/**

株主と株式の概況

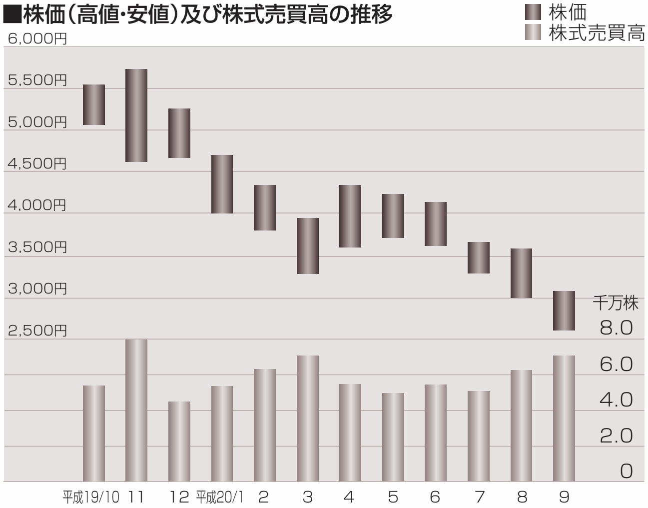
■株式の状況

	平成20年9月30日時点	平成19年9月30日時点
株主数	48,844名	31,817名
発行済株式数	514,626千株	514,626千株

■所有者別分布（株式数と比率）

	平成20年9月30日時点	平成19年9月30日時点
金融機関	194,326千株（37.8%）	199,619千株（38.8%）
証券会社	8,080千株（ 1.6%）	6,832千株（ 1.3%）
その他法人	21,356千株（ 4.1%）	20,049千株（ 3.9%）
個人·その他	40,892千株（ 7.9%）	34,498千株（ 6.7%）
外国法人等	239,779千株（46.6%）	250,150千株（48.6%）
自己株式	10,193千株（ 2.0%）	3,478千株（ 0.7%）
計	**514,626千株**（ 100%）	**514,626千株**（ 100%）

■株価（高値·安値）及び株式売買高の推移



株価及び株式売買高は、東京証券取引所におけるものです。

表紙写真／「蓑掛岩と朝日」（静岡県南伊豆）　写真家:松野 茂男

会社概要

- 設　　　立　昭和9年1月20日
- 資　本　金　40,363百万円（平成20年9月30日現在）
- 本　　　社　東京都港区赤坂9丁目7番3号
- 連結従業員数　78,228名

インターネットで当社に関する情報がご覧になれます。
http://www.fujifilmholdings.com/

株主メモ

- 事業年度末日　3月31日
- 定時株主総会　6月下旬
- 公　告　掲　載　当社ホームページに掲載します。
  URL（アドレス）は次のとおりです。
  http://www.fujifilmholdings.com/
  ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
- 株主名簿管理人　東京都港区芝3丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所　東京都港区芝3丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社 本店
  （同送付先·連絡先）　〒168-0063
  東京都杉並区和泉2丁目8番4号
  中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
  電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
- 同　取　次　所　中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
  日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の中央三井信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電話 0120-87-2031（音声自動応答）
インターネットホームページ
http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

- 単 元 株 式 数　100株
- 単元未満株式の買取請求及び買増請求について

単元未満株式（1株から99株の株式）の買取請求（ご売却）及び買増請求（ご購入）については、上記の事務取扱場所·取次所でお取扱いたしております。ただし（株）証券保管振替機構（ほふり）に株券を預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

- 株券電子化後の住所変更、単元未満株式の買取·買増、配当金受取方法の指定等のお申出先

平成21年1月5日から、上場会社の株券電子化が実施される予定です。これに伴い、上場会社の株券はすべて無効となり、その株式は証券会社等の金融機関の口座で管理されるようになることから、以下のとおり、手続きのお申出先が変更となります。

- ほふりに株券を預けられている株主様:お取引証券会社
- ほふりに株券を預けられていない株主様:上記株主名簿管理人

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1376
© 1996 Forest Stewardship Council

FUJIFILM
富士フイルム ホールディングス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号
電話 (03)6271-1111（大代表）

GPN Green Purchasing Network
印刷サービス
印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます

ご注文はインターネット・電話・FAXで

インターネットでのご注文 http://www.ffhc.jp
年中無休 24時間受付

お電話でのご注文 0120-596-221
9:00〜19:00（年末年始除く）※携帯電話、PHSからもご利用いただけます。

FAXでのご注文 0120-796-221
年中無休 24時間受付（FAX専用）

株式会社 富士フイルム ヘルスケア ラボラトリー